

博士論文「地方都市交通政策の経済分析」の全体構成

地方都市交通の問題と論文の課題設定（序章）

地方都市の交通問題とその発生メカニズム

⇒道路利用に適切価格付けがなされない事による自動車の過大な利用、規模の経済性を有する大量輸送機関（公共交通）の過小利用
⇒自動車の過大な利用を前提とした、低人口密度の都市構造の形成、都市の土地利用効率の低下

経済理論的には、道路に課金すること、大量輸送機関に補助金を支出することが解決策として有効となる。しかしながら・・・

地方都市の交通政策の問題

①実証上の問題：低密度の都市構造の実態把握、地方都市の大量輸送機関の効率性と都市構造との関係、などが十分に実証されていない

②政策形成プロセスの問題：経済学的な知見を政策に生かすためのノウハウ（海外事例の活用法、都市交通政策の制度的な原動力などの知見）の不足。

都市と都市交通の計量分析

（1、5、6章）

⇒上記の実証上の問題に対処するために
・日本の地方都市の郊外化の様子を計量分析し、日本の都市の郊外化傾向を明らかにした（1章）
・バス事業の生産性を分析して、地方都市交通と都市構造が供給面でも強い影響を受けることを明らかにした（5、6章）

都市交通政策の比較分析

（2、3、4章）

⇒問題の実態を明らかにするために
・アメリカ(2、3章)、及び欧州、日本の都市交通政策の比較分析(4章)を行い、都市交通政策生成の歴史的変遷を明らかにするとともに、事なる政策が形成される制度的な規定要因を明らかにした。